



【やまぐち みつる さん】 旭ヶ丘 / 62歳

●防災意識の向上を目的として町内会やコミュニティ協議会を中心に自主防災組織の活性化を進める活動に力を注いでいます。

## 防災意識の高い安心なまちづくりを進めたい！

自主防災組織は、町内会や自治体が母体となって地域住民が自主的に連帯して防災活動を行う任意団体です。市は、町内会などとともにこの組織づくりを支援しています。自主防災組織のお問い合わせは、危機管理課 ☎(24)0 1 4 4

## 最近

、豪雨や地震などのさまざまなきな災害が発生しています。幸い、千歳では大きな災害は発生していませんが、常に心構えが必要です。

市内では町内会を中心とした自主防災組織が誕生し、もしもの場合に備えています。山口さんは、昨年まで市民協働防災事業実行委員会の委員として各町内会の自主防災組織づくりに活躍し、今も地域の防災活動に積極的に取り組んでいます。

「私が住む地域は少子高齢化が進んでいます。昼間は高齢者が中心のまちななあっていて、災害が起きたときに不安があります。市が防災組織をつくる事業を行っている」と聞き、自分の学習になる良い機会と思い参加しました」

と実行委員会での活動のきっかけを話します。

この委員会では、出前講座の形式により各町内会で地図上の防災訓練を行い、防災意識を高める取組を進めました。この結果、町内会を中心に自主防災組織が続々と誕生し、今では、市内の6割近い地域で組織を結成するようになっていきます。

「出前講座に参加された町内会の皆さんは防災の大切さを改めて認識したようです。町内会などを中心とした地域での自主防災組織への取組は確実に進んでいます」と話す山口さん。

「私が住む地域でも自主防災組織があり、定期的な訓練を行っているため防災への意識が高まっています。町内

会で発電機を購入したり、ヘルメットをそろえることを検討したりしています」と関心の高まりを話します。

「今後は地域の住民一人ひとりの意識への浸透が重要です。たとえば町内会の班などの単位で実践的な訓練をし、住民の皆さんの防災意識を高めることをしていきたい」とこれからの活動を話す山口さん。

「地域のつながりが強いほど、災害が起きたときの対応がスムーズにでき被害を最小限に抑えることができます。ぜひ自主防災組織をつくり、訓練を通して地域での人のつながりを強め、防災意識の高い安心なまちづくりを進めてほしい」と熱いまなざしで語ってくれました。

人のいる風景

SCENERY OF PEOPLE



MITSURU  
YAMAGUCHI

山口

満

さん